

# 糖尿病関連3項目 1台で測定

## サカエ、血液で海外も視野

ヒーター機器や医療機器を製造するサカエ（東京・港）は、糖尿病検査の指標となるヘモグロビンA1cなど3項目を1台で測定する小型の分析装置の提供を始めた。場所を問わず、即時で結果がわかることが特徴だ。2024年をめぐり、生活水準の向上などで糖尿病患者が増えているとされる中国や東南アジアでの販売も予定している。

糖尿病は放置すると心臓病や脳卒中を引き起こす危険があり早期の治療が重要だ。糖尿病の診断や進行度は空腹時血糖値や随時血糖値のほかに、糖尿病治療の指標となるヘモグロビンA1cの数値から総合判断する。前モデルの「アイギアック」ではヘモグロビンA1cの測定のみだった。新製品「アイギアプロ」ではこれに加え、CRP、ACRの計3項目を検査できる。CRPは炎症や細胞

動脈硬化などを判断できる。ACRは糖尿病の合併症である糖尿病性腎症の早期発見などに使う。

測定するには指先に細い小型の針を刺し、血液を1滴採取する。採取した血液を容器に入れて、機器に差し込むと約5分で結果がわかる。はがき2枚分ほどの設置スペースに収まるように小型にした。糖尿病の診断には血液検査などが必要だが、専用機器を置いていない病院やクリニックもある。糖尿病が疑われる患者の検査をする場合には専門機関に検体を回すなどしており、結果がわかるまで時間がかかる場合もある。

患者にとっては検査結果を聞くためだけに病院に行く必要があるなど不便だった。診察の際に即時で検査結果がわかることで治療を円滑に進められる。

糖尿病専門医だけでなく内科・小児科医への販売も狙う。



検体を採取し機器に入れると約5分で結果が出る

5月下旬から国内で出荷を始め、初年度は1000台の出荷を計画する。メーカー希望小売価格は税別48万円。

サカエは同社が製造する検査機器向けの検査試薬も開発している。今後アイギアプロ向けの試薬を開発し検査できる項目数を増やす。

タイやベトナムなどの東南アジアやインド、中国、台湾など海外での販売も予定している。同社はアイギアプロも含めて糖尿病検査用の分析装置を4製品展開しており、先に展開した2製品で米食品医薬品局（FDA）の事前申請をしている。

国際糖尿病連合の推計によると、世界全体の糖尿病患者は5億3700万人で、45年には7億8300万人に増える。新興国での生活水準の向上で患者が増えているとされており、東南アジアでは45年には21年の患者数から7割多い1億5100万人に増える見通しという。

同社は1952年創業で元々は航空機の手洗い用温水器やコンビニのコーヒーマシン用ヒーターなどを手掛けてきた。医療機器の製造は当初はOEM（相手先ブランドによる生産）だった。糖尿病検査での診療報酬の対象拡大や市場性を見込み、松本弘一社長の発案で09年に自社ブランドで糖尿病検査用の分析装置や検査試薬の製造を始めた。

国内のヘモグロビンA1c検査の臨床現場における即時検査機器市場で25%のシェアがあり業界2位という。23年3月期の売上高は27億円。

（久貝翔子）

許諾番号30094337 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2023年07月04日 日経産業新聞 009ページ © 日本経済新聞社 無断複製転載を禁止します。